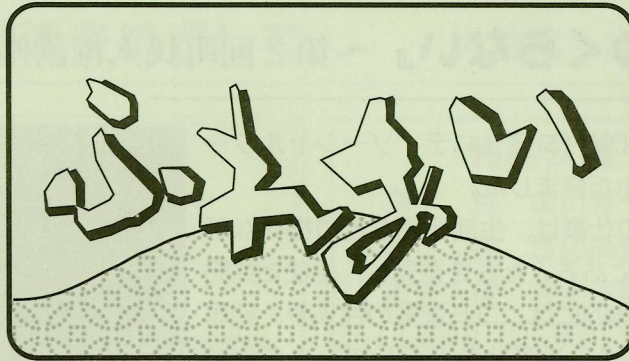


いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

第62号

発行:平成29年7月21日
(年3回発行)

編集:人権協広報部会

連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

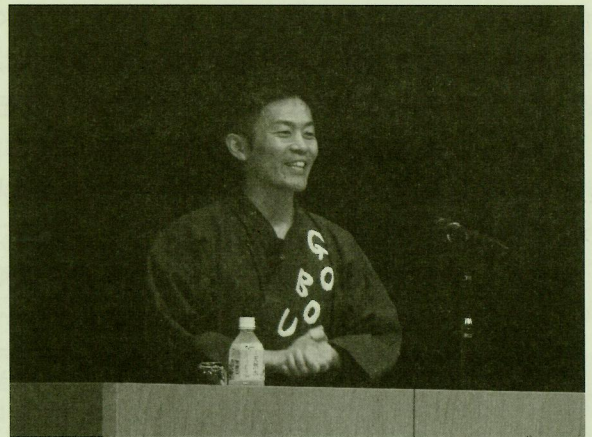
E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

「人と人、思いは伝わる」～第1回町民人権講座(5/25)築瀬寛さん～

やなせひろし

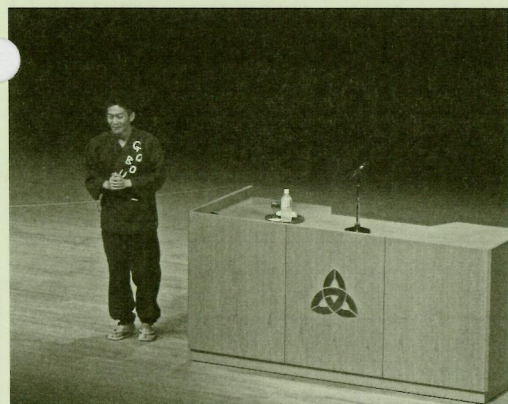
大人のための体操のお兄さん「ごぼう先生」こと築瀬寛さんをお迎えし、5月25日(木)に第1回町民人権講座を開催しました。

ごぼう先生の名前の由来は、介護の「ご」と予防の「ぼう」でごぼう先生と言ってみたりするそうですが、実際は奥さんに「ごぼうみたい」と言われ、ごぼうを知らない人はいない!ちょっと健康的!と思ってこの名前にしたそうです。ちなみに、奥さんは「おもち先生」で息子さんは「おにぎり先生」だそうです。



講演では「できなくてもいい、新しいことにチャレンジすることが大切」と手足、指先を使った健康体操を行いました。じゃんけんのゲー、チョキ、パーなど簡単な動きなのですが、右手と左手で違う動きをすることが非常に難しく、失敗するたびに会場は受講者の大きな笑いに包まれました。

また、介護予防の5つの秘訣として、「テクテク・モグモグ・ワクワク・コツコツ・ドキドキ」を教えてくださいました。「テクテク」は週3回できるような運動をすること。思うように体を操れるという感覚が大事だそうです。「モグモグ」は食事をおいしく食べること。「ワクワク」は好奇心を持ってチャレンジすること、日常の中に趣味などの楽しみを持つこと。「コツコツ」は継続すること。「ドキドキ」は期待を感じることに、何年後か先に期待するものを持つことだそうです。



そして祖母が認知症になった体験談をお話しいただき、介護予防には人との関わりが大切、現在は多くの情報があるので、聞いて不安を小さくすることができるし、困った方に情報を伝えることで笑顔が増える。また、認知症の人にも思いは伝わると祖母への感謝の手紙を読んで締めくくられました。

家族の目線でおばあちゃんとの関わりをまじえた話で、とても身近に感じながらお聞きすることが出来ました。介護は、暗いものではないということ納得しました。楽しく予防していければよいと思いました。

いろいろな体操楽しかったです。認知症の方の関わり方は同じ介護の仕事をする立場として共感が持てました。介護は楽しいです。

朝から誰とも会わず話のない1日でしたが今日は参加して本当に良かったです。声を出し、しわの心配をしながら涙を出して良く笑いころげました。本当によい時間をありがとうございました。

すごく楽しい時間であっという間でした。将来、おじいちゃん、おばあちゃんが気軽に集まることのできる場、交流できる機会を作っていきたいです。改めて地域の方との交流のできる仕事がしたいと思いました。私の笑顔でたくさんの人を笑顔にしていきたいです。ありがとうございました。

かつべ れいこ

「ひとりぼっちをつくらない」～第2回町民人権講座(6/30) 勝部麗子さん～

大阪府豊中市社会福祉協議会のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）、勝部麗子さんにご講演いただきました。

CSWとは大阪発の専門職で、その仕事は、生活保護などの様々な制度では救えない「制度のはざま」にある人々を発見し、住民と共同でその解決を目指すことです。具体的には、ゴミ屋敷の住人や、独居老人、長期間引きこもりの人などを、近隣社会へ戻していくことです。

ともすれば、迷惑な人・困った人・変わった人とレッテルを貼られ、孤立してしまいがちな人々を、決して力尽くではなく地域の住民や事務所を巻き込み、人としてのつながりを大切にしながら社会へ戻していく勝部さんの根気強く、力強い仕事ぶりをお聞きし、改めて考えさせられることがたくさんありました。

勝部さんが大切にされているのは、地域の中で「ひとりぼっちをつくらない」こと。それは、みんなが笑顔で暮らせる町の絶対条件だと言います。「一番きびしい人を見捨てない社会」を作ることが、安心して暮らせる町づくりにつながると教えていただきました。



何もかもが便利になって、一人でも何不自由なく暮らせるようになった今。人間関係が貧困な今を見直し、決して「ひとりぼっちをつくらない」、そんなあたたかい集落、美浜町にしていきたいと強く感じました。



「本当のことは見ようとしないと見えない」という言葉は正にその通りだと思いました。つつい人は、相手のことを決めつけてしまい、勝手なイメージを持ってしまうけど、実際は自分が思っていたような人ではない事もあると思います。一歩踏み出して、相手のことをよく知ろうとすることが大切だと分かりました。そのためにも、コミュニケーションは必要だと思います。どんな時でも相手のことを思いやり接したいと思いました。勝部先生が紹介してくれたコミュニティはどれも楽しそうで魅力的でした！みんなが参加できる場があることは良い事だと思いました。

ご近所さんのことを気にかけるのは簡単なようで難しい事だと思いました。ただ一人が変われば周りも一緒に変わってきたりもするのかなとも思いました。自分も周りに声を出せるような人になりたいです。

人と人とのかわりが薄い毎日の中でとても淋しい思いがあります。世の中変わってしまったなど、またどうしていいのかと考えたりしましたが、お節介おばさんでいたらええんやと思えるようになりました。まず声掛けを進んでしようと思います。

2017年 今後の町民人権講座

	日時	演題	講師等	スタイル
第3回	7月23日(日) ①14:00～ ②19:00～	映画(キネマ旬報2016第1位) 『この世界の片隅に』(2016)	日本アカデミー賞受賞の感動作！ 原作：こうの史代 監督：片淵須直 音楽：コトリンゴ キャスト：のん 他	映画上映
第4回	9月22日(金) 19:30～	「女らしくなく 男らしくなく 自分らしく」	落語家/上方落語会所属 つゆ まるこ 露の団姫さん	講演会
第5回	10月20日(金) 19:30～	「命の授業」 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～	元・中学校体育教師 こしづかはやと 腰塚勇人さん	講演会
第6回	11月24日(金) 19:30～	「現代の部落差別」 ～取材を通して見えてきたこと～	毎日新聞大阪支社・学芸部記者 はやしゆきこ 林由紀子さん	講演会

「人権のまち・美浜をめざして」

人権協・部会紹介 (全7部会)

会 長 竹仲敏春
副会長 山口和治・河合政志・竹本三代一

人権擁護・啓発部会

中谷敏治 木野 隆 藤田俊一 知場富雄
 加茂ひろ子 上田秀夫 武長詩子 瀬戸弘勇
 山口れい子 瀬戸慎一 武田 晋

夏フェス(花火大会)や人権週間中に啓発活動を行います。
 推進委員相互の交流や研修を行います。

広報部会

河合政志 真田邦彦 宇都宮 貴
 山野泰孝 西野泰弘 一瀬繁紘
 長谷川里紗 浜野有美 竹内正雄 出口稔久

年3回広報「ふれあい」を発行し、人権に関する情報や人権協などの活動に関する情報を提供します。

啓発資料・人権協コーナー部会

高橋一男 森井みどり 福嶋智恵美 戸羽 豊
 木下満寿美 加藤睦教 武田美和子 南 宥希
 原田映里 中川貴寛 四ツ谷美樹

身近に人権について考えていただけるような啓発資料「ふれあい」を発行します。人権週間中に、町民参加型の人権協コーナーを開設します。

作品公募・意識調査部会

森本 哲 山口有一 河藤恵美 三好万里子
 河本 猛 渡辺直史 浅妻知明 高木雄大
 志賀大輔 今安沙都子 川畑貴寛 木谷浩章

人権作品(短い手紙・絵・ポスター・写真)の公募を行い、入賞作品は人権作品集「ふれあい」として発行します。意識調査について検討していきます。

町民人権講座部会

森本克行 堀川ふじ子 高木賢治
 武田喜孝 武藤涼子 四ツ橋政和
 浜野裕介 山口和哉 池田達弥 竹内洋子

年間6回の講座を開設し、広く町民に人権に関わる学習機会を提供します。(1.2pをご覧ください)

推進団体学習部会

大塩友之 兵庫賢一 寺田真一
 畠中治男 上原 浩 武田志津加
 国川千尋 三田紘司 荒木祐作

集落・企業・団体等の自主的な学習機会の開催を支援します。

人権のつどい部会

木子雅之 加藤美千代 中嶋さき子
 河合美恵子 玉井なおみ 本間博美 港 真里奈
 大同美智子 西野文隆 山口靖代 浜野明美

人権週間の意義を踏まえ、12/9(土)に「人権のつどい2017」を開催します。

〈人権コラム〉

私の父には生まれつきの障がいがあり、なおかつ数年前から認知症の症状も進んできたため、介護サービスを利しながら一緒に暮らしている。

多くの日常動作に介助が必要なので、家族で協力しながら父の暮らしを支えてきた。仕方なくではなく、自然にやってきたつもりだったが、気がつけば「〇〇してやっている」と思っている自分がいる。

「すぐに忘れてしまうから、どうせ分からなから...」

「こつちだつて大変なんだ」
 父にもどかしさを感じ、おおらかにいられない自分に言い訳しながら、いつの間にか「介護する側」「介護される側」と線引きし、父を私たちとは違う種類の人間として捉えてしまっていた。

これは家族という小さい単位の中で起こっている差別とも言えるのかもしれない。

日々の介護は問題も多く行き詰まることも多い。

でも父は父だ。今を生きている。それは私たちと何も変わらない。

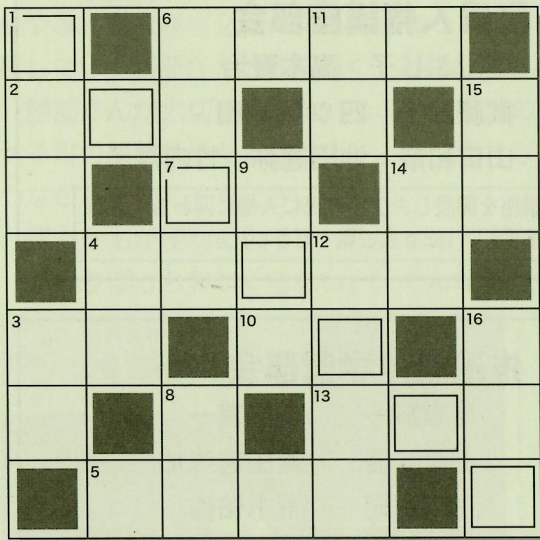
自分の持つ価値観が一番正しいんだという思い込みや、自分の中に無意識に存在する差別心を少しずつ手放して、温かみのある目と心で父と向かい合っていきたいと、あらためて思っている。

(真)

こえ 声 こえ

「ふれあい」第61号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので紹介します。

- ◆なびあすで行われている「人権講座・つどい」聴いてみたいと思ってもなかなか参加できないが、こうして「ふれあい」の文章でじっくり学び知ることができるのがありがたいです。クロスワード、今回は夫婦で知恵を絞って答えを出し合い、なかなかのコミュニケーションがとれました。夫の役割、妻の役割、常日頃何気なく当たり前のようにこなしていますが、おたがい尊重し、感謝を忘れることなくすごしていきたいものです。(Eさん)
- ◆夫が亡くなり早四年、毎日のように泣いてさみしい思いをしています。心が苦しく、病気にまでなりそうな気がしました。人とのふれあいは全くできませんでした。朝になると、姉の家に行き、しかられながら生きたこの四年間。今はちょっとしたふれあいで、全然知らなかった人と友達になり、少しずつ明るくなり、人とも話ができるようになり、助けたり、助けていただいたりして、みんなと楽しく生きていけるようになり、少し笑えるようにもなりました。(Tさん)
- ◆人間は「普通じゃないもの」に興味を持ち、時には差別の目で見ることもある。うちの子が「普通じゃない」からジロジロ見られる。気にしすぎなのかもしれないけれど、気になって傷ついてしまう。すれちがいがまに「あら、かわいそうに。」といわれて、私はうちの子がかわいそうな子とは思っていなかったけれど、やはり「普通じゃない」からかわいそうなのか…？本人は普通に生きているのに…。すごくもやもやする。子どもを産んで初めて差別をされる側の気持ちを知りました。人生何があるかわからない。(Oさん)



応募方法

(郵送、FAX、E-mailいずれかでおねがいします)

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷土29-3 美浜町生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
※FAX (0770-32-1222) E-mail (jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)
- べ切は、平成29年9月30日(土)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「ハラスメント」でした。当選者は次の皆様でした。おめでとうございます。

川口みどりさん (木野) 山口 左紀さん (木野)
柄本 清幸さん (大 藪) 竹仲みさえさん (佐 柿)
岩本 育代さん (山 上)

人権クロスワードパズル

二重わくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



ヨコのカギ

- 2: ハワイ諸島の中で3番目に大きい島。ホノルルがある。
- 3: 絶えず水が流れる細長い地形。
- 4: ドヴォルザーク交響曲第9番「〇〇〇〇〇より」。
- 5: 1や2、3などの小数部分がない数字のこと。
- 6: The sentence that was written in English
- 7: 胴体と腕の間に挟まれた部分のこと。
- 10: 将棋の駒の材料にも使われている樹木。
- 13: 「輪舞曲」「回旋曲」とも言う、異なる旋律を挟みながら、同じ旋律を何度も繰り返す曲。
- 14: 「ヨコ14」は「タテ14」より出でて「タテ14」より「ヨコ14」し

タテのカギ

- 1: 「今日はこちらまで」と本の間に挟みます。
- 3: 将棋盤の材料にも使われているイチイ科の樹木。
- 4: アイロンをつかって伸ばします。
- 6: 国際的な自動車レースの最高峰。
- 8: 平らな体をしていて長い尾を持つ魚。「海鷓魚」とも書く。
- 9: 春や夏や秋や冬のこと。
- 11: 水面に浮かべる目印のこと。
- 12: 暑い日には、道路などの上にゆらゆらと…。
- 14: 「ヨコ14」は「タテ14」より出でて「タテ14」より「ヨコ14」し。
- 15: タンスや羊かんを数える時の単位。
- 16: 地方別にその風土や文化などについて記した書物のこと。

編集後記

人権協21年目の活動がスタートしました。広報部会のメンバーも4名が新たになり、また新鮮な感覚で広報誌づくりに励んでいきたいと心新たにしています。どうぞよろしくお願ひします。

ところで、先日の新聞に「グーグルマップに大阪市内の駅名に部落を付けて表示、抗議を受けてすぐ削除」という記事が載っていました。いわゆるインターネット上の差別落書きの典型的な事例です。なぜこのようなことが、繰り返されるのでしょうか。改めて人間の心の中にある差別心について考えさせられます。昨年来、差別に

対する法律が次々と施行されてきた中で、それに逆行するかのようこの現実、実に残念でなりません。まさにいたちごっこの状況です。しかしながら、かと言って歩みを止める訳にはいきません。

人を差別することで、自己の存在感を得ようとする人間の心に深層に迫り、そこからの解放をめざして取り組むことこそが人権協の啓発・広報活動の原点にならなければならないのかもしれない。そのためにも、一人一人が尊重され、あたたかい心と笑顔のあふれる社会を目指して、より一層内容の濃い広報誌づくりに励んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。(河合)